

令和8年度

『亀岡市生活支援体制整備事業』委託事業

暮らし続けられるための 生活支援を考える会 ～まちづくりわくわく作戦会議～ を開催しました

令和8年7月24日(金) 13:30～16:00
ガレリアかめおか大広間

37名参加

<講師>

東京都稲城市職員荒井崇宏さん

<事例発表>

旭サポートカー 藤原 庸右さん

// 川勝 香苗さん

畑野町 緑会 池田 洋二さん

地域で生活支援事業を実施している団体の発表

移動支援 旭サポートカー

(目指す旭町の姿)

- ①高齢者が安心して暮らせる地域づくり
- ②外出機会を増やし健康維持につなげる
- ③地域の助けあいの仕組みの一つとしての移動支援
- ④支え合う地域コミュニティの再生

⇒元からある支え合いの風土を「システム化」した

⇒「送迎」だけでなく「安心」を届ける事業

⇒安全運転講習会を毎年実施

⇒「いつかは私もお世話になる」という思いで運転ボランティア



生活支援

畑野町 緑会

(目的)地域の高齢者が集まり、知恵を出し合って、「困りごと」を自ら解決し「安心して住み続けられる地域」づくりに一歩でも貢献できるように

⇒電球交換、草刈り、掃除・・・皆の特技を活かして

⇒多様な支援者のネットワークを作る

⇒作業者には少しでも謝礼を出して、経済循環をつくる！

⇒元気な高齢者には、支援する側になる機会を



(福)亀岡市社会福祉協議会 地域支援課 地域福祉係

mail:tiikifukusi@fukukame-net.or.jp

亀岡市余部町樋又61-1 ふれあいプラザ内 TEL:0771-23-6711 / FAX:0771-24-0350

移動支援Aグループ

- 西別院町では、移動支援事業を行っていて、車内がコミュニティになっている。大型車に変わったことで、玄関先の狭い道までいけなくなる所が発生したが、中継送迎をしてくれる人もいて事業が継続できている。
- 西つつじヶ丘自治会では、移動支援を含む生活支援の立ち上げに向けて、意識のある人が集まって何回か話し合いを行っている。自治会所有の軽自動車を使って、買い物のピストン送迎を月に1回から始めてみようかと話し合っている段階。
- 保津町では、高齢者支援として自立している高齢者の交通支援で、地区ごとに運転手を手配し、7人の運転手の出来る範囲で、病院や買い物など生活必需の目的に限り支援を行っている。現在利用者は17名。



生活支援Bグループ

- 西別院町では自治会と地区社協で病院送迎の移動支援を行っているが、山間部のため難しさもある。地区社協が立ち上がったけれど、活動が住民にあまり知られていないことも課題だと思っている。
- ふれあいカフェでは以前まで、スタッフが食事を作って提供していたが、物価高騰の問題やスタッフの負担もあり、現在は参加費を100円にしてコーヒーを提供している。コーヒーやお菓子を用意すると、参加者がゆっくり時間を過ごされており、以前のようにスタッフが様々なことを頑張って取り組まなくても良いのかなと感じた。
- 遊快クラブでも自分が代表であるが、それぞれのグループに自然とリーダーができて活動している。自分は特別なことをしていない。ある意味、代表は何もしないということも大切であると思う。
- 看護師として病棟で働いている時に、患者さんの爪切りをしていたが、地域に戻った時に誰がこの爪を切るの？と思い、「もろこしほーむ」を立ち上げた。依頼は京都市内からも多いが、かめおか生活安心サポート隊を通じた依頼もある。いずれは、地域に居場所を作りたいと思っている。ヤングケアラーが増えている現状もあり、来てくれたら「ごはん食べていきな」と言えるような居場所を作りたい。



生活支援Cグループ



- ・ お寺を会場にサロンを立ち上げたばかり。皆さんの外出の機会を確保するためにサロンを続けていくヒントを探している。
- ・ お助け隊的な活動(電球交換など頼みづらいちょっとしたこと)をお手伝いしたい。しかし自宅内での支援にはリスクも生じるため、課題に感じている。
- ・ 詐欺防止や認知症予防啓発と包括の周知も目的にサロンにこまめに出向くようにしている。
- ・ 移動販売に伺った際に、見たものすべてほしがる方もおられるため、冷蔵庫の中身を確認して、同じものを購入しないように助言するなどしている。
- ・ 便利屋業は認知症と思われる方からの依頼も多いため、逐一家族に意向確認や報告をしたり、2人一組で作業に入るなどの工夫をしている。運転代行の依頼が多いので、今後事業化したい。



講師荒井さんよりメッセージ

私が知っているところで、住民の方が参加費300円でおにぎりや豚汁を提供し、隣近所で集まる活動をされているところがあった。そこでは、SNSで段々と広まり、次第に子育て世代の方も参加するようになった。狙ったことをしなくても人は集まると思った。近所で集まってラジオ体操をされる活動もあるが、1人キーマンがいると次第に仲間が集まると思う。

<<参加者アンケートより>>

感想

- ・ 人の助けが力になり、困った人を助けることにもつながることの大切さ
- ・ 支援者同士の話し合いの機会を何度も作ることが大切。
- ・ 課題は多く、一言ではなかなか大変だと思います。
- ・ 顔を合わせて繋がりあえる機会があればと思っています。

今後取り上げてほしいこと

- ・ 居場所づくりの事例
- ・ 集いの場には出てこれない方の見守り方
- ・ ハンディキャップのある人も参加でき楽しみにできるような実践例